

街道を歩く

中山道：鳥居本宿一高宮宿

彦根城

井伊直継の代慶長8年(1603)に築城始まり20年近くかかって完成。大津、佐和山、安土長浜城の取壊し資材を使う。天守閣は姫路、松本、犬山城とともに国宝。城内には直弼の生まれた楽々園(観御殿)、隣接して延宝5年(1677)直興が玄宗皇帝の離宮を模して造営したという玄宮園がある。また近くに直弼が14〜32歳まで過ごした家、埋木舎がある。**世の中をよそに見つつも埋れ木の**
埋れておらむ心なき身は 直弼

宗安寺

井伊直政の夫人東梅院が両親のために建てる上野國箕輪から佐和山を経てこの地に移る。井伊家内室の菩提寺として続く。山門(赤門)は佐和山城から移す。朝鮮通信使の宿舎を勤める墓地には大阪の陣で井伊家に敗れた豊臣家の忠臣木村重成の墓がある

明照寺

本願寺と信長が対立した時仏敵信長打倒に活躍彦根藩主井伊直孝大阪の陣に出陣の時城中処務一揆警戒などの任務にあたる境内に芭蕉の笠塚と14世住職、芭蕉門人李由の句碑がある。**"乞食の事いふて寝る夜の雪"**

高宮神社

年代不詳であるが鎌倉時代の末期ごろ？。古くは十禅師、山王権現と称されていた。明治5年高宮神社と改称。随身門横に芭蕉句碑 **"をりをりに伊吹も見てや冬籠"**

大鳥居と常夜灯

宿のほぼ中央に位置する。寛永8年(1631)2代將軍秀忠の病氣平癒祈願のため春日局が代参したときここから大社への道を彦根藩が整備したという。鳥居は寛永の大造営(1633-38)のときに建てられたものと推測される。高さ11m、柱間約8m。常夜灯高さ6m、底1辺3.3m

紙子塚

貞享元年(1684)の冬、芭蕉は門人の季由(平田明照寺)を尋ねた時円照寺も訪れ小林家に泊った小林家では翌日芭蕉であることを知り感激し新しい紙子衣装を送った代わりに古い紙子衣装を頂き、芭蕉の句を書き軸とし、残りを壺に入れ庭園に埋め紙子塚とした

"たのむぞよ寝酒なき夜の古紙子"

旧布惣

江戸時代農家の副業として麻布が織られていた高宮はその集散地、布惣はその問屋で全国各地に販売していた。明治中頃より衰退

朝鮮通信使街道(青線)鳥居本一日夏



朝鮮通信使街道
道標
「右彦根道左中山道京いせ」
野洲行畑まで41km余

古代東山道はこの辺りを通っていた。南の原に鳥籠駅があったと推定され、中世にはここ小野にあったとされる。幕府は慶長7年(1602)の中山道整備の時は小野に宿を命じている彦根城築城により鳥居本に移されたと思われる

小町地蔵

小野好実が奥州最上、出羽郡司の任期を終え京に帰る途中、小野宿に滞在し一人娘を養女にし京に連れて帰り養育したのが小野小町との伝説

ごろせ
五老井跡
(霊園の事務所東)

蕉門10哲の1人、彦根藩士森川許六の隠居所があった所。許六はじめ5人で掘ったという井戸残る。**"水すじを尋ねてみれば柳かな"** 句碑建つ。

天猷寺

井伊家13代直中が建立。奥女中若竹が不義の子を懐妊したので彼女に死を命じる。後になって子の父が長男直清と知る。初孫を殺してしまったことを後悔し、母子追善のため寺を建て500体の羅漢像を安置した。境内には桜田門外の襲撃によって血に染まるとされる井伊直弼の衣装を埋めたとされる供養塔、参謀長野主膳の墓、関係の深かった村山たか女の碑がある